

学部

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生活科学部が養成する人材像とは、現代社会の生活問題を学際的、複合的に学修し、生活や社会の問題に関する意識をもち、問題解決の理論的、実践的知識と能力をもつことのできる者である。専門分野だけでなく、学際的な視点をもち、理論的考察にとどまらず、学修成果を現実の社会に還元できる者を養成する。

上記の人材を養成するため、生活科学部では、「知識・理解」、「技能」、「実践的姿勢」、「統合的な学修経験と創造的思考力」の観点から、各学科における学修成果の目標を定め、これに到達した者に対して学士（生活科学）の学位を授与するものとする。

<人間福祉学科>

人間福祉学科では、基幹教育科目の履修を通じて基本的教養と国際感覚を、学科基礎科目の履修を通じて専門分野に関する基礎的な知識・技能等を、これに続く学科専門科目の履修を通じて、高度な知識・技能等を修得し、所定の期間在学して所定の単位を修得した学生に学士（生活科学）の学位を授与する。

人間福祉学科では、養成する人材像に基づき（知識・理解）、（技能）、（実践的姿勢）、（統合的な学修経験と創造的思考力）の領域において、以下のような学修成果をめざす。

（知識・理解）

- 基幹教育を通じて自然科学、社会科学、人間科学、データサイエンスに関する知識を得るとともに、専門教育の中で得た知識を統合し、社会生活を多面的にとらえ、人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなって生起する現代の生活課題を把握することができる。
- 生活と環境、個人と社会の関係、生涯にわたる人間の心身の発達と心理・社会的援助について理解し、修得した知識を応用することができる。

（技能）

- 多様な言語や情報通信技術（ICT）などを活用し、対人援助の場面で求められるコミュニケーションの技能を用いて、人と関わるることができる。
- 生活課題を発見し、必要な情報を収集し、複眼的・論理的に分析することができる。
- 生活課題を解決するために社会資源を活用することができる。
- 生活課題を解決するために必要な技能（洞察力、実践力、指導力、解決力など）の基礎を身につけている。

（実践的姿勢）

- データから分析的に課題を把握し、他者と協働して、課題解決に向けた方策を立案し、実行することができる。
- 人権や社会正義に基づき、自分の責任で判断し、行動できる。
- 自己理解と他者理解を深めていく姿勢を持つ。

（統合的な学修経験と創造的思考力）

- 修得した知識・技能・実践力などを総合的に活用し、人と社会における新たな課題の解決に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）と4年間の流れ

生活科学部の教育課程は、大阪公立大学全体の基本方針とも連動し、「基幹教育科目」及び各学科に設置する「専門科目」を大きな柱とし、各学科の教育目標にあわせたカリキュラムが編成されている。また、本学部の教育課程は、学際的、かつ実践的な教育を重視し、各学科のディプロマ・ポリシーを実現するため、それぞれ学科の特色を生かした編成方針となっている。

<人間福祉学科>

「人間福祉学科」においては、ディプロマ・ポリシーを踏まえて、以下の（１）～（９）を通じて、学修目標を達成するとともに、学生のキャリアデザインに応じた専門性の高い能力を身に付けさせる。本学科の特色に応じた4年間の教育を行うとともに、学部教育において、社会福祉士養成も併せて行う。

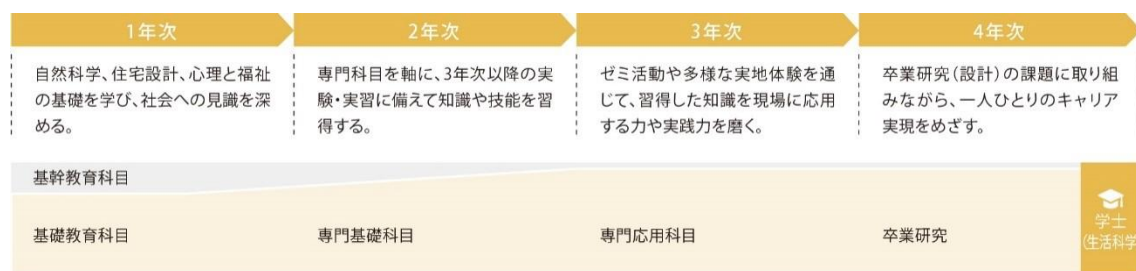
1. 専門的な知識と方法を体系的に学ぶために、専門科目を設置する。福祉、公正や平等を促進するための施策や制度を立案するために必要な Social Policy に関する専門知識、さまざまな生活課題を持つ個人や家族、グループ、コミュニティで暮らす人々がより良い生活を送ることができるよう支援するために必要な Social Work に関する専門知識、人々が健康かつ安全で、尊厳を持って生活できるよう支援するために必要な Health and Social Care に関する専門知識を3つの柱として体系的に修得する。Evidence Based Practice (EBP)に必要なデータサイエンスに関する専門知識も併せて修得する。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。
2. 人間福祉に関連した多様な基礎知識と基本的な学修能力を身につけるため、1年次、2年次に基幹教育科目として、総合教養科目、ゼミナール科目、情報科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目を置く。特に、人権に関する科目の履修を推奨する。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。基幹教育を通じて、自然科学、社会科学、人間科学に関する知識をもつとともに、専門教育の中で得た知識を統合し、社会生活を多面的にとらえるための（知識・理解）の基盤を形成する。
3. 学際的な視点を養うため、1年次において、人間福祉に関連する諸科学を概観し、基本的な視点を獲得するための科目として人間福祉学概論を置く。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。
4. 人間福祉にかかわる広範囲な知識を身につけるための専門科目を配置する。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。
5. 人間福祉にかかわる生活課題をデータから分析的に把握する能力を身につけるため、データサイエンス科目を2年次以降に置く。専門知識を問う一般的な試験に加え、問題意識、論理的な展開を測る論述試験、レポートによって、学修成果を評価する。
6. 知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等、社会生活において必須となる汎用的な能力を育成するため、人間福祉学演習を必修科目として3年次に置く。
7. これらを通じて、ディプロマ・ポリシーで示した（知識・理解）、すなわち、自然科学、社会科学、人間科学、データサイエンスに関する知識、生活と環境、個人と社会の関係、生涯にわたる人間の心身の発達や心理・社会的援助の理解、修得した知識の応用を達成する。対人援助の場面で求められるコミュニケーションの技能、生活課題を発見し、必要な情報の収集、複眼的・論理的分析、生活課題を解決するための社会資源の活用など、心理・社会的課題を解決するために必要な（技能）を修得する。
8. 人間福祉の実践的な能力を修得するため演習や実習科目を主として3年次、4年次に置く。これらの演習・実習を通じて、他者との協働、課題解決に向けた方策の立案、人権や社会正義に基づき、自分の責任で判断・行動する姿勢、自己理解と他者理解を深めていこうとする姿勢といった、ディプロマ・ポリシーで示した（実践的姿勢）を身につけさせる。

9. 修得した知識や技術を統合し、人間福祉に関する現代の課題に接近し、その解決のための実践的・学術的能力を育成するため、4年次に卒論演習・卒業論文を必修科目として置く。

これらを通じて、修得した知識・技能・実践力などを総合的に活用し、人と社会における新たな課題の解決に取り組むことができるといったディプロマ・ポリシーで示した（統合的な学修経験と創造的思考力）を修得させる。

なお、各学科とも上記の試験、レポート、授業中の小テストや発表などの平常点などの評価方法および評価基準については、授業内容の詳細と併せてシラバスにおいて科目ごとに明示する。

4年間の流れ



入学者受入の指針（アドミッション・ポリシー）

生活科学部は「健康」「環境」「福祉」を基礎概念とし、生活を取り巻く3分野を研究対象とする食栄養学科、居住環境学科、人間福祉学科の3学科から構成され、分野横断的な教育研究を行う。既知の問題を効率的に解く能力だけでなく、人間生活の多様な側面を新たな視点や感性によって捉え、自ら問題を発見して解決策を見出すことのできる人材の育成を目指す。

したがって、生活科学部では、次のような学生を求めている。

【生活科学部の求める学生像】

- 本学部の学問分野に興味を持ち、将来にわたって学習を継続する意志を有する人
- 学習のための基礎的能力を有し、論理的な思考を行うことができる人
- 自己学習や協働を通して学問を探究し、自らの経歴を形成することができる人

<人間福祉学科>

（１）学科が行う人材育成方法

人口構造や社会構造の変化、地域社会の変貌にともなって生起する現代の生活課題を正確に把握し、多様で深刻な個人及び地域の課題に対応できる人材の養成を目指す。

したがって、人間福祉学科では、次のような学生を求めている。

（２）求める学生像

1. ①人間福祉に関する学問分野に興味を持ち、将来にわたって学習を継続する意思を有する人
2. ②学習のための基礎的能力を有し、論理的な思考を行うことができる人
3. ③自己学習や協働を通して、人とのかかわり、人を支えることに関心をもち、福祉課題を探究し、自らの経歴を形成することができる人

（３）入学者選抜の基本方針

本学科は多様な人材を選抜するために、一般選抜、学校推薦型選抜、国際バカロレア特別選抜、私費外国人留学生選抜を実施する。ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーで示した（知識・理解）、（技能）、（実践的姿勢）、（統合的な学修経験と創造的思考力）の目標を達成するための基礎が備わっていることを確認するために、次の「学力の3要素」に関する成果に基づいて入学者選抜を行う。

1. ①知識・技能

大学入学共通テストおよび個別学力検査等において一定の水準の成績を収めている

2. ②思考力・判断力・表現力等の能力

大学入学共通テストおよび個別学力検査等において一定の水準の成績を収めている

3. ③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

口述試験や志望理由書等の内容が優れている。